

黒と白

「黒色は葬式みたいですか？」

知人が仕立ての良さそうなスーツを着てやって来た。私もちよつとした会合があると黒色を着て出ることが多い。これでシャツが白だと不祝儀か怖いお兄さんのように見えるかもしれないが、「黒色は目出度い色だった」と答えると、マジでと驚いた。ほんの百年くらい前までは花嫁は黒の振袖姿だったし、今でも男性の正式な礼服は黒無地の

えんぎやく
燕尾服なのである。

神職の服装の中に、齋服というのがある。潔斎の服という意味で、重要な祭祀に着られる純白色のものである。白色は清らかで神の前で着用されてきたが、近頃は色物も使用される。当神社では純白を主として普段から浄衣という清浄な白絹の衣服に、袴は差袴、立烏帽子、掛緒は紙捻で手に笏を持ち、浅沓を使用する。するとおのずと気持ち引締まってくる。

この黒色と白色を互い違いにした幕を、「鯨幕」と言う。今回、二十年ごとに行われる神宮式年遷宮の鎮地祭に使用されたが、見た目に黒白色なものだから報道関係者から何か不幸でもあったのかと質問されたそうだ。

純白のウエディングドレスは、女性キリスト教徒の式服で、黒の喪服も西洋からのものであるが、我が国においては一千年以上も前から厳粛の究極の黒と、清浄の白が伝統的に使用され、現在も現役なのである。神社は日本人の主軸なのだ。

気がつくとな彼が怪訝そうな顔をして私を見ている。ガチで、マジだし！